



「鬼滅の刃」と鬼退治

今や社会現象となっている大ヒットアニメ「鬼滅の刃」。その人気ぶりはすさまじく、原作漫画の累計発行部数は1億部を突破し、10月16日に公開された「劇場版『鬼滅の刃』無限列車編」は、公開から1カ月で興行収入が230億円を超え、歴代最高のペースで記録を伸ばし続けているそうです。それも、コロナ禍の中で大人から子供まで多くの人を励ましてくれているからでしょうか。「鬼滅の刃」はコミックやアニメでのブームで収まらず、スーパーに行くとお菓子、飲料、文具、おもちゃ、衣類、ガチャガチャゲームと関連グッズが溢れていることにも驚いています。（今や関連グッズを買いすぎて「鬼滅貧乏」という言葉さえあるそうです…。）

そんな中、11月15日の山形新聞に「鬼滅のSL 山形にあった！」という記事が掲載されていました。



ヒット中の映画「鬼滅の刃」に登場するSLと同型式の8620形が、山形市第二公園に保存されている
=同市十日町4丁目

作品中に描かれている「無限列車」は、アニメの舞台である大正時代に造られた蒸気機関車（SL）が引く客車列車がモデルとなっており、これと同じ型式のSLが意外にも身近にある。山形市の第二公園（十日町4丁目）に半世紀前から保存されている旧国鉄の「8620形」だ。同公園の8620形は1923（大正12）年製造の552号機。廃車となった69（昭和44）年に市政施行80年記念として、旧国鉄から市に移管された。同じように8620形は全国に10台超が現存しているという。（山形新聞より）

ところで、歴史学者の磯田道史さんがテレビ番組で、「... この度の新型コロナ禍と最近の鬼ブームには、大いに係わりがある...」と興味深い話をされていました。

... 昔、鬼は「祓（はら）うもの」と言われていましたが、今、鬼は「滅びるもの」と受け止めることにより、（コロナ禍の社会だからこそ）「鬼滅の刃」の大ブームが起きたのではないかと...。鬼 = 新型コロナウイルスではないかという説です。実際、今年に入り中国・武漢でのパンデミック、2月の横浜港におけるダイヤモンド・プリンセス号でのクラスター発生、4月に入り緊急事態宣言の発令、以降、連日関連報道が続く状況下で、「鬼滅の刃」の発行部数も増加していったとのこと。強力な鬼に対して、傷つき、時に死者を出しながら立ち向かう鬼殺隊への共感と応援こそが、『鬼滅の刃』の大ヒットの大きな要因と考えられる...

来年の節分には、単純に「鬼は外」と鬼を追い出すというだけでなく、「疫病退治・コロナ禍の終息」と真剣に祈念して豆まきをやろうと誓った次第でした。

鬼退治で良いお年をお迎えください！

黒沼 範子